東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008年2月15日

商業上の徳

親愛なるムスリムの皆様。人が他人の重荷にならずに生きていくこと、子どもたちの成果生活費を確保することを目的として、合法的な手段で働くこと、あるいは商売を行なうことは、イスラームにおいてはイバーダと同等に神聖で尊い行為として認められています。

一方で、商業活動を誠実に、双方の信頼に基づいて行なうため、いくつかの商業上の徳に価値が与えられています。これらの原則を、実業家や商業に従事する人々、そしてその顧客が守った場合、豊かさと繁栄の扉がより容易に開かれるでしょう。もしそれに重きがおかれなかった場合、賄賂や不正、不正な利益、借金の踏み倒し、詐欺といったような醜い事柄を、法律的な予防や罰則によって防ぐことはできなくなるでしょう。クルアーンでは、「信仰する者よ、あなたがたの財産を、不正にあなたがたの間で浪費してはならない。だがお互いの善意による、商売上の場合は別である。」（婦人章第２９節）と命じられ、商業では互いの善意が基本となることが指摘されています。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。商売を行なう際、詐欺、嘘をつくこと、賄賂といったような、イスラームが合法と認めていないことによって利益を得る人は、クルアーンの表現によるなら、シャイターンの跡をついていく人です。「人びとよ、地上にあるものの中良い合法なものを食べて、悪魔の歩みに従ってはならない。本当にかれは、あなたがたにとって公然の敵である。」（雌牛章第１６８節）とクルアーンでは命じられています。預言者ムハンマドも、「最良の、最も清められた利益とはどのようなものか」という問いに対し、人が自分の手による努力と、偽りのない合法な商売によって得られた利益である。」と答えられました。またある伝承によると、「自分で稼いだもの以上に価値のある糧を得るものはない。アッラーの使者ダーウードも、自らの手で得た利益を得ていた。」とおっしゃられています。預言者ムハンマドは、商業上の徳に関する原則について語る際、商売における不正な競争、購買をあおるために買う予定であるかのように振舞う人をたてること、計略を用いて価格を吊り上げようとすることなどを禁じられています。アッラーが、真実が隠され嘘が混じった取引からは恵みを取り上げられることをも教えられています。

この観点から、クルアーンが過去の民族の崩壊や滅亡の理由の一つとして示している、商業上の不道徳さと不正を避け、現世のはかない恵みに対し欲望を募らせ、不正な利益に身を落としてはいけないのです。合法な、ハラールである仕事に従事し、合法な手段によって利益を得て、禁じられた、あるいは疑わしいものを糧としないようにする必要があるのです。また子どもたちに、合法でないものを食べさせることを、細心の注意を払って避けなければいけないのです。この点は、イバーダの承認のためにも、そして社会生活における安全と安心のためにも非常に重要です。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。今日のフトバをハディースで締めくくります。「正しいことを話し、信頼のできる商人は、来世において預言者と誠実な人々、殉教者達と共にいるだろう。」